

# コアネットオンライン講座(2025年度第3回)報告

2025年12月20日(土)

## 「お互いに学び合い、ed(過去形)ではなく、ともにing(現在進行形)」

講師の東田晴弘さんは、11月末にエチオピアから帰国されたばかりでした。2か月にわたる訪問の疲れが残り、記録の整理などでお忙しい中、この講座の打合せや報告の準備などをしていただきました。この紙面を借りて感謝申し上げます。

宣伝期間が短かったのですが、参加者は前回(9/28 インドネシア)並みでした。そしてコアネットとしてエチオピアを取り上げるのは初めてでしたが、活発な質疑応答が行われました。その要点を報告します。

報告は「【自立への道】エチオピアの理数科教育をその国の教員だけで続けられるように!」というメインタイトルに凝縮されたものでした。東田さんが理事長をつとめている「NPO 法人イービジョン・ジャパン」は、エチオピアの理数科教育の課題を◆教材の多くを輸入に依存しているため生徒実験をするだけの実験器具が不足している。それを国内で作れるかがカギである。◆教員自身、実験の経験が少ないため、結果を覚えるだけの授業になりがちだと分析しています。その課題を克服していく活動の実例を法人のホームページで紹介されている豊富な写真を通じて、わかりやすく説明していただきました。

質疑では「なぜエチオピアでこの活動をするようになったのか」、「NPO が学校教育現場に入っていくことは許されているのか」、「JICA の教育支援とどう違うのか」、「法人の運営はどうしているのか」、「資金をどう調達しているのか」、「この運動を継承する次の世代の育成はどうか」など、幅広い議論が交わされました。東田さんはその一つ一つに丁寧に答えていただきました。

筆者が特に印象に残った言葉は、「お互いに学び合い、ed(過去形)ではなく、ともにing(現在進行形)にならないと」、「教育の成果はなかなか学校建設のように形や数値ですぐに見えるものではありません。この取り組みは、敢えて教育の本質=学びとは何かそのものに切り込み時間をかけて育むプログラムです」、「子どもたちが道具を使い、ものに触れ、働きかけては、観察し、推敲し、次の一手を作り出す営みは歴史を作る原動力そのものです」ということでした。これらは日本の ODA が「国益」・安全保障の追求に傾斜している現在、その対案を提示する実践の一つだと思います。今後とも東田さんたちの活動に注目し、ともに学びあっていきたいと思えます。

コアネット事務局 遠山勝博

コアネットのオンライン講座に参加させていただく機会を頂きありがとうございました。

今回の ZOOM での報告の準備と、当日に頂いたご質問やご指摘から次の一步につなげる視点をいただきました。イービジョン・ジャパンの目指していく方向を再確認することができました。

支援する側・支援される側という括りではなく、お互いに学び合う関係を\*現場の実際から学ぶこと、\*子どもたちから学ぶこと、を通して作っていく営みを今後も続けていくことを再確認できました。

ご指摘された①後継者づくり(持続させる現地スタッフとの協働)や②経費確保の課題に力を注がねばと感じさせられました。経費確保に当たっては、当法人が目指していく方向を資金提供者に合わせるのではなく、私たちが目指している取り組みに資金提供しようとしてくれるところを探すことにチャレンジしていきたいと感じました。ありがとうございました。

NPO 法人イービジョン・ジャパン 東田晴弘

